



2023年、阪神タイガース18年ぶりのリーグ優勝の年に





INTRODUCTION

横田慎太郎。阪神タイガースの背番号24を背負う若きホーブとして将来を嘱望されたが、21歳で脳腫瘍を発症し、引退を余儀なくされた。彼が最後の試合で見せた"感動のラストプレー"は、野球ファンだけでなく、多くの人々の心に深く刻まれている。その一球に込められたドラマを描いた横田選手の自著「奇跡のバックホーム」と、彼が2023年に28歳でその生涯を閉じるまで、家族と共に闘い続けた人生の軌跡を描いたノンフィクション「栄光のバックホーム」が、製作総指揮を見城徹と依田巽、『20歳のソウル』の秋山純が企画・監督・プロデュース、中井由梨子が脚本を務め、「幻冬舎フィルム第一回作品」となる『栄光のバックホーム』として映画化。本作では、慎太郎の野球選手としての雄姿と、引退後の家族や恋人、仲間との知られざる軌跡が描かれる。主人公の慎太郎を演じるのは新人の松谷鷹也。彼は、亡くなる直前の慎太郎の元へ毎日通い、本人から譲り受けたグラブで"奇跡のバックホーム"を完全再現。W主演として母・まなみさんを演じるのは名優、鈴木京香。揺らがない息子への愛を体現する。そして、日本屈指の演技派俳優陣が物語を彩る。主題歌は慎太郎の心の支えで、現役時代の登場曲だった、ゆずの「栄光の架橋」。阪神が18年ぶりのリーグ優勝を決めた2023年9月、甲子園球場で4万人の観客が慎太郎に向けて大合唱した不朽の名曲だ。野球と、家族と、人を愛し続けた彼の生き様は、きっと私たちに前へと進む勇気をくれるだろう――。

STORY 彼の夢を支え、ともに歩んだ道のり。それぞれのドラマ。

2013年のドラフト会議で阪神タイガースに2位指名された横田慎太郎、18歳。甲子園出場は逃したが、その野球センスがスカウトの目に留まり、大抜擢された期待の新人だ。持ち前の負けん気と誰からも愛される人間性で、厳しいプロの世界でも立派に成長していく慎太郎。2016年の開幕戦では一軍のスタメン選手に選ばれ、見事に初セットを放つ。順風満帆な野球人生が待っていると思われた矢先、慎太郎の体に異変が起こる。ボールが二重に見えるのだ。医師による診断結果は、21歳の若者には残酷すぎるものだった。脳腫瘍――。その日から、慎太郎の過酷な病との闘いの日々が始まる。だが、彼は孤独ではなかった。母のまなみさんをはじめとする家族、恩師やチームメイトたち、慎太郎を愛してやまない人々の懸命な支えが彼の心を奮い立たせる。そして、2019年9月26日、引退試合で慎太郎が見せた"奇跡のバックホーム"は人々を驚かせ、感動を呼んだ。しかし、本当の奇跡のドラマは、その後にも続いていたのだった…。

「構田慎大郎さんと主演・松谷鷹也の縁と絆



「映画では、應也さんに僕を演じてほしい本作の主演に大抜撮された新人俳優の松谷鷹也は、元高校球児。慎太郎さんと同じ左投げ左打ちで、プロ野球選手だった父・松谷竜二郎さんの影響で野球を始めた古も共通する。俳優レーで活

助する傍ら、秋山純 監督の制作現場でスタッフも務めていた松谷は、本企画立ち上げ当初から取材を通して慎太郎さんと交流を深めた。慎太郎さんから愛用のクローブを、松谷は初めて映画で着たシャツを贈り合う仲になる。松谷は慎太郎さんを演じるため、譲り受けた大切なグローブと共に福山ローズファイターズの練習生として懸命に野球練習に励んだ。すべては、あの"奇跡のバックホーム"を完全再現するために。